

多可西脇地方の昆虫 (1. 蝶類)

猪股涼一、岡本清

多可西脇地方とは、行政区画上の多可郡(中町、黒田庄村、八千代村、加美村)と西脇市とを併称したもので、播磨の東北部を占め、面積は約320km²である。

地勢的には、中国山脈の果てる所、その名残りの支脈と思われる三国岳(855m)、千ヶ峰(1006m)、笠形山(939m)を結ぶ山脈がほぼ南北に走って、朝来郡・神崎郡と境し、これとおよそ平行する竜ヶ岳(817m)、篠ヶ峰(827m)、妙見山(693m)を連ねる山脈で、氷上郡に接している。従って、本地方は、これらの山脈によって形成された北西部の山地帯と白山(622m)・西光寺山(713m)をそれぞれ主峰とする2つの山塊から成る東部山地帯とで、中央部の平地帯を抱え込んだ形になり、その平地帯が北に氷上郡、南に加東・加西の両郡と連って、播州平野の東北端をなしている。河川については、中央平地帯を南北に貫く加古川本流があり、これに、三国岳から発する杉原川、笠形山東部を源とする野間川、東部山地帯から流れ出る細谷川・比延谷川の4河川が西脇附近で合流している。

兵庫県下における昆虫相の調査は、古くから各地方でなされて来ており、着々と大きな業績が積み重ねられている。ところが、当多可西脇地方に関しては、今まで、あまり調査が行なわれていないように思われるので、猪股が1957年から、1959年には岡本が加わって、共同で昆虫相の調査を続けて来た。その後、西脇高校定時制中心校生徒有志より成る「自然同好会」の発足をみ、さらに、同僚職員にも同好者ができて、蝶類については、予想外に調査がはかどったので、今までに得た知見を報告して、同好諸氏の御参考に供したいと思う。しかし、筆者等は浅学な初心者である上、未だ調査期間も短く、今後の調査にまつべき点が多いので、名位の御叱正を仰ぎ、追々完全なものにして行きたい所存である。

本稿では、観察事項を主とし、それに、

- (1) 最盛期(普通種以外で、ほぼその判明したものについてののみ)
- (2) 最も早期に採集した記録、例、
21/IV(1959)黒田庄村喜多
- (3) 最早期と最晩期の採集記録(年1化の種についてののみ)例、
27/V(1959)西脇市高松~2/VI(1957)西脇市寺山
- (4) 全採集個体の記録(希種のみ)
- (5) 産地(局地的な分布を示す種、興味のある種についてののみ)

を加えるのを原則とした。

なお、本稿を発表するに当たり、発表をすすめられ、その機会を与えられた室井緯先生に厚く御礼申し上げると共に、終始、適切な御助言と御指導を賜わり、本稿を校閲して下さいた沢田敏郎先生、種々便宜を与えられた田中兼治先生及び同僚職員各位、ならびに資料を提供された自然同好会員諸君に深い謝意を表する次第である。

セセリチョウ科 Hesperiiidae

1. ミヤマセセリ *Erynnis montanus* BREMER

低山地の開けた路上に多い。最盛期は4月中旬。28/III(1959)西脇市八目山~24/V(1958)加美村千ヶ峰

2. ダイミョウセセリ *Daimio tethys* MÉNÉTRIÉS

各地に多いが、市街地・田園地帯には余り見られない。最盛期になると、飛んでいる蝶は本種ばかりというような場面にもぶつかることもある。1959年5月末、八千代村笠形山麓で、路傍のヤブレガサに本種が次々と飛来して、常時3~4頭が葉上の鳥糞を吸っているのを観察した。20/IV(1959)西脇市比延

3. アオバセセリ

Choaspes benjaminii japonica MURRAY

三国岳には多産するが、中腹では殆ど見られず、山頂では活発に旋回し、山麓ではエゴノキの花に飛来するものが多かった。三国岳の他、千ヶ峰、笠形山などの北西部山地以外からは得られていない。最盛期は、第1化が5月中旬、第2化が8月上旬。2/V(1959)加美村三国岳

4. キマダラセセリ *Poatanthus flavum* MURRAY

普通種である。26/V(1959)八千代村笠形山

5. ヘリグロチャバネセセリ

Thymelicus sylvaticus BREMER

特に留意して探していたのだが、やっと最初の1頭を得た。1959年7月4日、千ヶ峰中腹(標高約500m)で、岡本がヒヨドリバナに来ていた1羽を採集した。他に1羽を見たが採り逃した。共に新鮮な個体であった。当日は天候不良のため、それ以上の登高を断念したが、中腹以上の高所には、相当数が発生するものと思われる。

6. ヒメキマダラセセリ

Ochlodes ochracea rikuchina BUTLER

北西部山地ではやや普通の種であるが、他ではまだ得られていない。オカトラノオの花上に見ることが多い。最盛期は、第1化が、6月下旬、第2化が8月下旬。三国岳、千ヶ峰、笠形山に産する。

28/VI(1959)三国岳

7. コチャバネセセリ *Thoressa varia* MURRAY
普通種である。湿った路上で水を吸っているものを多く見かける。近づくとついに数mずつ先に止まる行動はハニシヨウのそれに似ている。21/Ⅳ (1959) 黒田庄村喜多
8. ホソバセセリ
Isoeteinon lamprospilus C. et R. FELDER
普通種だが、前種ほど多くはない。
27/Ⅵ (1959) 西脇市西脇中学校附近
9. オオチャバネセセリ
Polytremis pellucida MURRAY
普通種。イチモンジセセリと共に最も多い種である。
10/Ⅵ (1958) 西脇市寺山
10. チャバネセセリ
Pelopidas mathias oberthüri EVANS
普通種であるが、前種より少い。23/Ⅵ (1957) 西脇市八日町
11. ミヤマチャバネセセリ
Pelopidas jansonis BUTLER
個体数は極めて少く、三国岳麓で、猪股が汚損した1♂と新鮮な1♀とを得たに過ぎない。いずれもノアザミの花に来ていた。30/Ⅴ (1959) 三国岳
12. イチモンジセセリ
Parnara guttata BREMER et GREY
普通種。特に秋期に多い。26/Ⅴ (1959) 笠形山
アゲハチョウ科 **Papilionidae**
13. ギフチョウ *Luehdorfia japonica* LEECH
食草の分布から考えると、何処にでもいるはずであるが、調査が不十分なため、今の所、産地は割合限られている。個体数も一般に少ないが、西脇市武島には比較的多産する。他に、西脇市金城山、同寺山、同八日山、同岡崎、同市原、黒田庄村津万井に産する。最盛期は4月上旬。30/Ⅲ (1959) 西脇市寺山~24/Ⅳ (1958) 西脇市八日山
14. アオスジアゲハ
Graphium sarpedon nipponum FRUHSTORFER
少ないながらも、何処でも見受けられる。
しかし、5月下旬~6月上旬の三国岳では個体数が少なく、エゴノキの花に集まるものが多かった。また、7月中下旬の笠形山頂も相当に多い。24/Ⅳ (1958) 西脇市寺山
15. ジャコウアゲハ *Byasa alcinous* KLUG
普通種だが局地的である。春型最盛期は5月上旬。
21/Ⅳ (1959) 黒田庄村田高
16. アゲハ *Papilio xuthus* LINNE
普通種である。21/Ⅲ (1959) 中町妙見山
17. キアゲハ *Papilio machaon hippocrates*
C. et R. FELDER

- 個体数は意外に少ない。春型最盛期は4月上旬。
2/Ⅳ (1959) 西脇市寺山
18. オナガアゲハ *Papilio macilentus* JANSON
北西部山地では、相当に多い。春型はノアザミ、タニウツギの花上で得られることが多い。最盛期は第1化が5月下旬、第2化が8月上中旬。3/Ⅴ (1959) 千ヶ峰
19. クロアゲハ *Papilio protenor demetrius* CRAMER
低山地では最も多い種であるが、平地ではアゲハよりかなり少ない。1/Ⅴ (1959) 西脇市西林寺
20. モンキアゲハ
Papilio helenus nicconicolens BUTLER
今の所、この科では、ミヤマカラスアゲハに次ぐ稀種である。確実な標本としては、岡本が採集した下記の1♂の他、加美村市原で1957年に氷井淳一氏が得られた1♀があるだけだである。笠形山では、3~4回目撃したがいずれも採集に失敗した。なお、田中兼治氏によれば西脇市西林寺で、毎年、数回目撃される由である。
30/Ⅴ (1959) 三国岳
21. カラスアゲハ
Papilio bianor dehaanii C. et R. FELDER
平地では余り見られないが、北西山地では多い。特に笠形山頂、三国山麓には多い。三国岳では、晴天の日には、春型の♂の湿地で水を吸っているものが多く見受けられ、ノアザミの花に集まるのは殆ど♀であった。最盛期は、第1化が5月中下旬、第2化が8月上中旬。
2/Ⅴ (1959) 三国岳
22. ミヤマカラスアゲハ
Papilio maackii tutanus FENTON
本科中の最稀種である。今の所、笠形山頂で、1959年6月7日、小西池英身君が採集した春型1♂と、1958年8月18日に、西脇市西林寺のクサギの花に飛来した夏型1♀を猪股が採集したのと計2頭である。
シロチョウ科 **Pieridae**
23. モンシロチョウ
Pieris rapae crucivora BOISDUVAL
普通種である。5/Ⅲ (1959) 西脇市寺山
24. スジグロチョウ *Pieris melete* MÉNÉTRIÉS
浅学のため、*P. napi japonica* はまだ区別し得ていないので、一応、*P. melete* として一括しておく。時と場所によっては、モンシロチョウより多いこともあるが一般には余り多くない種である。中町牧野の峠で、スズシロソウに産卵しているのを見た。21/Ⅲ (1959) 中町妙見山
25. ツマキチョウ *Anthocaris scolymus* BUTLER
平地、低山地に少なくない。最盛期の4月中旬には、低山地の山すそでは、モンシロチョウより個体数が多いこともある。1/Ⅳ (1959) 西脇市武島~3/Ⅴ (1959) 千ヶ峰

26. キチヨウ *Eurema hecabe mandarina* del' ORZA
普通種である。

27. ツマグロキチヨウ

Eurema laeta bethesba JANSON

普通種である。秋型は何処にも見られるのに、夏型は局地多産的な感じがする。季節型による飛翔力の差がもたらす現象であろうか。15/VI (1958) 笠形山

28. モンキチヨウ

Colias erate poligraphus MOTSCHULSKY

普通種である。12/VI (1959) 西脇市鹿野町

シジミチヨウ科 *Ilycaenidae*

29. ムラサキシジミ *Narathura japonica* MURRAY

普通種で、晩秋にはカシ類の葉上に群がることも多い。14/VI (1959) 西脇市高松

30. ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri* MURRAY

西脇市武島には相当多産する。他では一般に多くない。最盛期は5月下旬である。24/V (1959) 西脇市武島~2/VI (1957) 西脇市西林寺

31. ウラキシジミ *Ussuriana stygiana* BUTLER

個体数が僅少で、発見し難いためか、既知産地は少ないが、綿密に調査すれば、案外広範な分布を示すのではないだろうか。得られたものは、次の6頭だけである。

西脇市寺山 21, VI, 1958 1♂ 猪股採集

1959 1♂ 同上 22, VI, 1959 1♀ 田中教一君採集

西脇市武島 12, VI, 1959 1♀ 岡本採集

黒田庄村喜多 16, VI, 1959 1♂ 同上

黒田庄村白山 27, VI, 1959 1♂ 同上

32. アカシジミ *Japonica lutea* HEWITSON

局地的な種である。主な産地は、最も多産する西脇市中脇中学校附近をはじめとして、西脇市武島、寺山、高松、黒田庄村喜多、大伏、加美村三国岳などである。最盛期は5月下旬~6月上旬である。24/V (1959) 西脇市武島~2/VI (1957) 西脇市寺山

33. ウラナミアカシジミ

Japonica saepestriata HEWITSON

前種に較べれば、個体数も少なく、産地もより局限されるようである。主な産地は、西脇市高松、西脇中学校付近、黒田庄村喜多などである。最盛期は6月中旬。4/VI (1959) 黒田庄村喜多~25/VI (1959) 西脇市高松

34. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* BREMER

少ない種である。最盛期は6月中旬。9/VI (1959) 西脇市高松~5/VI (1958) 加美村奥荒田

35. オオミドリシジミ *Favonius orientalis* MURRAY

非常に普遍的な種であるが、一般に個体数は多くない。しかし、西脇市武島には多産し、クリの花に飛来するものが多い。同地は狭い地域であるが、ゼフィルス類

をはじめ、多種の蝶を産し、個体数にも恵まれた好採集地である。発見者平田善範君の功績は大きい。最盛期は6月中旬である。4/VI (1959) 黒田庄村喜多~5/VI (1958) 加美村奥荒田

36. ミドリシジミ

Neozephyrus taxila japonicus MURRAY

たいていは食樹の近くにいるが、午前中はクリの花に飛来するものがかなりあった。今の所、西脇市富吉、武島、黒田庄村喜多、白山だけであるが、武島にはかなり多産する。最盛期は6月中旬で、前種よりも少し遅れるようである。♀は、O型、B型、AB型、A型の順に多い。後2者は僅少である。

9/VI (1959) 西脇市武島~27/VI (1959) 白山

37. トラフシジミ *Rapala arata* BREMER

非常に個体数が少ない。特に春型は少ないようである。フジの他、トラノオの花にも来ていた。2/V (1959) 三国岳

38. コツバメ *Ahlbergia ferrea* BUTLER

低山地に広く分布する。最盛期は4月上旬、4/VI (1959) 西脇市市原~23/IV (1958) 西脇市高松

39. ゴイシジミ *Taraka hamada* DRUCE

西脇市比延、西田、黒田庄村喜多、大伏、笠形山などで、7月下旬の笠形山には多産する。20/V (1959) 西脇市比延

40. ベニシジミ *Lacaena phlaeas daimio* SEITZ

普通種である。1/IV (1959) 西脇市武島

41. クロシジミ

Niphanda fusca shijima FRUHSTORFER

加美村市原の放牧場に豊産し、♀の白化異常型も相当に得られる。その他、千ヶ峰山麓、西脇市和田町からも得られている。最盛期は7月上中旬である。4/VI (1959) 千ヶ峰

42. ウラナミシジミ *Lampides boeticus* LINNE

夏は少ないが、秋には、マメ類の畠に多い。本地方では、アズキ畠に多く、産卵しているのもよく見かけるから、恐らくアズキが主要な食草となっているのであろう。その他、クズに産卵しているのも見た。23/VI (1959) 加美村清水

43. ツバメシジミ

Everes argiades hellotia MÉNÉTRIÉS

普通種である。10/IV (1958) 西脇市板波

44. ヤマトシジミ *Zizeeria maha argia* MÉNÉTRIÉS

普通種で、特に秋は最も多い。24/IV (1958) 西脇市八日山

45. シルビアシジミ *Zizina otis emelina* del' ORZA

杉原川は、最上流の加美村山寄上をはじめとして、合流点である西脇市野村までの間に点々として産地があ

り、加古川本流は氷上郡との境界まで確実に産し、特に黒田庄村中央橋付近には多産する。野間川、細谷川、比延谷川については未調査である。河川から離れた産地としては、今の所、西脇市西林寺だけがわかっている。個体数は9~10月が最も多い。25/Ⅳ (1958) 西脇市津方

46. ルリシジミ

Celastrina argiolus ladonides del' Orza

普通種で、特に早春に、最も個体数が多い。27/Ⅰ (1959) 西脇市郷ノ瀬

ウラギンシジミ科 *Curetidae*

47. ウギンシジミ

Curetis acuta paracuta de NICÉVILLE

多くない種であるが、秋にはかなり個体数が多くなる。柿の腐熟果に好んで飛来するようである。9月中下旬には夏秋両型が混在する。21/Ⅵ (1959) 西脇市武島

マダラチョウ科 *Danaiidae*

48. アサギマダラ *Caduga sita nipponica MOORE*

稀な種で、岡本の得た下記の1♀の他、三木順一氏の子息によって、笠形山 (15, Ⅵ, 1958) で産卵中の1♀が採集された。古くは、約30年前、田中兼治氏が西脇市比延地区で採集されている。その他、確実な目撃としては、笠形山頂 (7, Ⅵ, 1959) で上昇気流に乗って、相当な高所を飛ばし1頭を見たのと、三国岳 (28, Ⅵ, 1959) で杉林中に見失った1頭だけである。30/Ⅴ (1959) 三国岳

テングチョウ科 *Lybtheidae*

49. テングチョウ

Lybthea celtis celtoides FRUHSTORFER

一般に個体数が少ない。比較的多く見られるのは、早春の越冬個体である。31/Ⅴ (1959) 西脇市高松

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

50. クモガタヒョウモン

Argynnis anadyomene midas BUTLER

笠形山麓に多産し、次いで三国岳に多い。他では余り見かけない。ノアザミの他、タニウツギの花にも飛来する。最盛期は5月下旬。3/Ⅴ (1959) 千ヶ峰

51. ミドリヒョウモン

Argynnis paphia geisha HEMMING

余り多くない種であるが、加美村荒田には比較的多い。初発はもつと早いはずだが、6月中旬より早くは見つけていない。ノアザミ、オカトラノオの他、サワアジサイにも飛来する。最盛期は6月下旬~7月上旬である。19/Ⅵ (1959) 西脇市高松

52. メスグロヒョウモン

Damora sagana liane FRUHSTORFER

ヒョウモン類は一般に、ノアザミやオカトラノオの花

を好むが、本種、特に♂は、クリ、ネズミモチの花に集まるが多かった。余り多くない種である。最盛期は6月中下旬。8/Ⅵ (1959) 黒田庄村喜多

53. ウラギンスジヒョウモン

Argyronome laodice japonica MÈNÈTRIÈS

ヒョウモン類中、最も普通な種である。平地にも相当見られる。最盛期は6月下旬。3/Ⅵ (1959) 三国岳

54. オオウラギンスジヒョウモン

Argyronome ruslana lysippe JANSON

稀な種で、北西部山地から3♂が得られたのみである。28/Ⅵ (1959) 三国岳

55. ウラギンヒョウモン

Fabriciana adippe pallescens BUTLER

千ヶ峰、三国岳では、ウラギンスジに次いで多い種である。最盛期は6月中旬。3/Ⅵ (1959) 三国岳

56. オオウラギンヒョウモン

Fabriciana nerippe C. et R. FELDER

前種より遙かに少ない。最盛期は6月下旬。25/Ⅵ (1959) 千ヶ峰

57. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius LINNE*

少ない種であるが、笠形山の尾根には比較的多い。ササの葉上に翅を開いて静止する♂を多く見つけた。

24/Ⅴ (1959) 西脇市西林寺

58. イチモンジチョウ

Ladoga camilla japonica MÈNÈTRIÈS

普通種である。24/Ⅴ (1959) 西脇市高松

59. アサマイチモンジ

Ladoga glorifica FRUHSTORFER

前種と共に、ウシコロシ、エゴノキなどの花に集まる。個体数は、場所によっては、前種より多いこともある。三国岳における観察では、前種は、地上に静止したり、杉の木立の相当な高所を、杉にまつわるように飛びまわることがよく見かけられるのに対し、本種は灌木の葉上に静止することが多く、地上に止ることは殆どないようであった。また、高所を飛び廻るのも殆ど見なかった。29/Ⅴ (1959) 西脇市比延

60. コミスジ *Neptis aceris intermedia W. B. PRYER*

本科の中では、キタテハと共に最も普通なものである。14/Ⅳ (1959) 西脇市寺山

61. ホシミスジ *Paraneptis pryeri BUTLER*

名越観全氏によって発見された西脇市高松金城山が唯の産地である。しかも、同地でも、極く限られた2ヶ所一だけにしか棲息しないようであるが、個体数は少なくない。28/Ⅴ (1959) 西脇市高松

62. サカハチチョウ

Araschnia burejana strigosa BUTLER

山地性の蝶で、北西部山地以外からはまだ見つかって

いない。北西部山地では広く分布するが、場所により個体数に相当の差が見られる。三国岳、笠形山、加美村奥荒田には多産する。ヒヨドリバナ類、アジサイ類の花に多く見られる。最盛期は、第1化が5月上中旬、第2化が6月下旬～7月上旬、第3化が9月上中旬である。

2/V (1959) 三国岳

63. ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* LINNE

個体数が非常に少なく、殆どが晩秋の小春日和に得られている。好んで飛来するのは、コギク、コスモスの花である。23/IX (1959) 西脇市八日町

64. アカタテハ *Vanessa indica* HERBST

普遍的だが余り多くない。17/VI (1959) 西脇市高松

65. ルリタテハ

Kaniska canace no-japonicum von SIEBOLD

タテハ類ではキタテハに次いで多い。秋には、樹上の腐熟柿によく飛来する。18/VI (1959) 西脇市高松

66. ヒオドシチョウ

Nymphalis xanthomelas japonica STICHEL

羽化当初は局地的に多いが、分散してしまうと殆ど見受けなくなる。1958年5月末、西脇市比延の河原で、カワヤナギに下垂している多数の桶を発見したので、アトランダムに20頭捕って帰った所、6月初めに14頭が羽化した。羽化しなかった6頭のうち、2頭は腐敗し、4頭は小孔が開いていたが、何が寄生していたのかは確かめ得なかった。翌1959年再び同地を訪れたが、蛹も幼虫も全く見つからなかった。2/VI (1958) 西脇市比延

67. キタテハ *Polygonia c-aureum* LINNE

河原のカナムグラに多い。最も普通。28/V (1959) 西脇市高松

68. コムラサキ *Apatura ilia substituta* BUTLER

三国岳麓には比較的多産する。一般には余り多くない。樹液に集まるものを殆ど見かけないのは、個体数が少いためであろうか。24/V (1959) 西脇市鹿野

69. スミナガシ

Dichorragia nesimachus nesiotus FRUHSTORFER

極めて少ない種で、三国岳 (30, V, 1959) で1♂、加美村清水 (3, VI, 1959) で1♂を得たのみ。前者は広い山路でカラスアゲハと共に吸水中を捕えたものである。他に確実な目撃は三国岳 (VI, 1959) の1頭、西脇市八日山 (V, 1958) の1頭だけである。

70. ゴマダラチョウ

Hestina japonica C. et R. FELDER

山地には少なく、平地には局地的に多い。20/V (1959) 西脇市比延

ジャノメチョウ科 *Satyridae*

71. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* BUTLER

極めて普通である。21/III (1959) 中町妙見山

72. ウラナミジャノメ

Ypthima motschulskyi BREMER et GRAY

珍しい種ではないはずだが、と注意して探していたら、3年目にやっと三国岳で見つかった。その後、笠形山、西脇市寺山でも採集したが、他ではまだ見えていない。産地は局地的なようである。28/VI (1959) 三国岳

73. ジャノメチョウ

Minois dryas bipunctatus MOTSCHULSKY

余り多くない。最盛期は7月下旬～8月上旬。28/VI (1959) 西脇市西脇中学校付近

74. ヒメジャノメ

Mycalesis gotama fulginia FRUHSTORFER

普通種。夏、秋には、イチジクの腐熟果に集まっているのをよく見かける。24/V (1958) 千ヶ峰

75. コジャノメ

Mycalesis francisca perdiccas HEWITSON

普通種。5月には本種の方が多く、6月以降は前種の方が多い。日蔭を好む性質は、本種の方が、前種より強いように見受けられた。1/V (1959) 黒田庄村喜多

76. クロヒカゲ *Lethe diana* BUTLER

一般に少ないが、笠形山の神社付近にはかなり多い。日蔭を好む性質が最も強い。24/V (1958) 千ヶ峰

77. ヒカゲチョウ *Kirrodesa sicelis* HEWITSON

普通種。7/VI (1959) 笠形山

78. キマダラヒカゲ

Neope goschkevitschii MENETRIES

普通種。13/IV (1959) 西脇市高松

79. ヒメキマダラヒカゲ *Harima callipteris* BUTLER

笠形山が唯一の産地で、標高700m以上の所に多産する。千ヶ峰、三国岳にも産しそうなものだが、と注意しているが、高所のササ原にもまだ発見できない。笠形山のササは多分クマザサだろうと思うが、はっきりしない。三国岳のササはチュウゴクザサ (室井紳先生鑑定) である。三国岳に本種が産しないのは、ひょっとすると、食草であるササの種の違いによるのかも知れない。最盛期は6月中下旬。7/VI (1959) 笠形山

80. ヒメヒカゲ

Coenonympha oedippus annulifer BUTLER

局地的に多産する種である。1958年に発見した唯一の産地、西脇市寺山西南斜面の、灌木の混った湿性草原が、宅地用に切り開かれたため、殆ど全滅の憂目にあい、残念に思っていた所、1959年6月、名越観全氏によって西脇市高松と同市野村に新産地が発見され安堵した。似たような地形、植物相の処が他にも相当あるので、今後とも次々に産地が発見されるものと思う。最盛期は6月中旬。9/VI (1959) 西脇市高松 (以下23ページへ)

(28ページより続く)

〔付 記〕

- (1) 多可郡西脇地方は、相当な標高の山地に恵まれながら、国有林を全く含まず、民有地ばかりである。従ってスギ、マツ、ヒノキなどの植林が多く、広葉樹林が少ないので、昆虫相は一般に貧弱である。
- (2) 蝶類もその例にもれず、種類数、個体数、共に意外に少ない。1959年9月25日現在、判明しているものが、

上記9科80種である。

- (3) ウスバシロチョウ、スジグロチャバネセセリ、ギンイチモンジセセリは、今後発見される可能性の最も大きいものである。
- (4) 笠形山は、多可、神崎両郡の境に位置し、後者に属する部分が多いが、区別するのはわずらわしいので、一応、行政区画は無視することにした。